

建設業界で活躍する女性技能者

注目される弘栄設備工業(株)、山形県連(技能五輪強化育成チーム)、山形県立産業技術短期大学の取り組み

平成27年12月、千葉県で開催された第53回技能五輪全国大会には、各都道府県の予選で選抜された47人の青年技能者が出場した。うち女性の選手は2人。1人は山形市にある弘栄設備工業(株)工事部に所属する渡邊美樹さん(21歳)で、もう1人は山形県立産業技術短期大学を今年卒業し、東北電化工業(株)に就職した渡部莉里夏(りりか)さん(20歳)。何と山形勢が“独占”した。おりしも、同県では今年10月、同県で初めて技能五輪全国大会が開催されることになっており、2人の意欲と女性活躍への取り組みが高く評価されている。2人を中心に、弘栄設備工業の松田晃取締役、短期大学の堤和司教授、山形県連の結城健次事務局長、全管連の松本正美理事・技術委員長、全管連本部の仲村信慶氏を加え、取り組みを語り合っていた。なお、座談会は山形管工事センターで収録された。

(司会・文責 水道ネットワーク通信 有村 源介)
「月間コア」共同企画



取材の様子

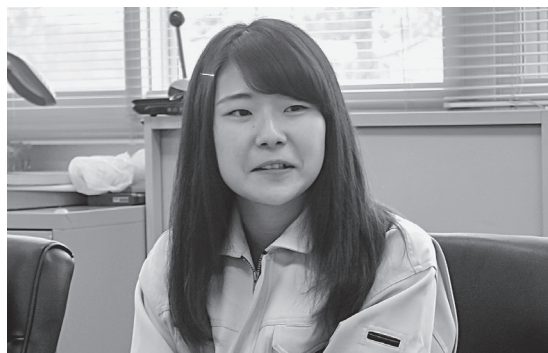


山形管工事センター



渡邊 美樹さん

仲村 本日は「建設業界で活躍する女性技能者」というテーマで語り合っていたかどうかというお願いをしたところ、社業・学業ご多忙のところをご参集いただき、誠にありがとうございます。建設業界では熟練工から若年技能労働者への技能継承が進まず、将来的な建設業界の存続が危惧され、若年労働者の人手不足感が強まっています。そこで、若い技能者が建設業界、中でも設備業界へ進んでいただくという観点から、特に女性技能者の活躍について語り合ってくださいます。建設業は職場で働く女性労働者を増やすことで有効に建設技能労働者を補うこともでき、女性が多く働く職場は若い人も安心して入職しやすく、建設業の魅



渡部 莉里夏さん

力に繋がるとされています。その中で、学校や会社のサポートも含めてここ山形から全国へ発信していただければと思います。では、全管連理事・技術委員長であり、第53回技能五輪全国大会「配管職種」競技主査をお務めいただいた松本委員長からお願いします。

松本 今日はお忙しいところをお集まりいただき、本当にありがとうございます。私ども、今日は東京からお邪魔して、山形っていいところだなあと改めて思いました。第53回技能五輪全国大会には山形から7人の選手を出していただき、意気込みを感じました。成績はなかなか良かったと思います。3人が敢闘賞を受賞されました。大会では「丁寧な仕事を

取材にご協力を頂いた方々（順不同・敬称略）

〔弘栄設備工業(株)〕

工事管理本部 工務部 渡邊 美樹

取締役総務管理本部長 松田 晃

〔山形県立産業技術短期大学校〕

建築環境システム科 渡部 莉里夏

(当時、4月から東北電化工業(株)へ)

建築環境システム科 教授 堤 和司

〔山形県管工事業協同組合連合会〕

事務局 長 結城 健次

〔全国管工事業協同組合連合会〕

理事・技術委員長 (第53回技能五輪全国大会「配管職種」競技主査) 松本 正美

職員 仲村 信慶



松本 正美 全管連理事・技術委員長

してくださいね」というお話をさせていただきました。それに応えて丁寧な仕事をしていただきました。普通、75点以上取ると敢闘賞の対象となるのですが、昨年の大会では80点を獲得した人でも、敢闘賞を取れなかった人もおり、全体のレベルが高かったですね。今日は大会の時に感じたことや、女性の活躍に向けての話を聞かせていただけるものと思います。堤先生や松田本部長さんにはご指導いただきありがとうございました。引き続き、今後とも人材育成にご尽力いただければと思います。

なぜ産業技術短期大学校へ進んだのか？

司会 私は水道の業界紙に長く携わった後、独立系の水道ジャーナリストとして活動しております。山形市には日本水道協会の山形総会以来の訪問で、山形市の最近の情勢はもとより、女性の活躍をお聞かせいただけるということで、楽しみにしておりました。2人とも山形県立産業技術短期大学校建築システム科の卒業生で先輩と後輩の間柄で、指導教員は堤教授という理解でよろしいでしょうか？（2人うなずく）指導された先生と先輩後輩が集まったということで、色々なお話を聞かせていただけるものと思



結城 健次 山形県連事務局長

ます。まず、なぜ産業技術短大に進もうと思ったのかから、お聞かせ下さい。

渡邊（美） 産業技術短期大学校の存在を知ったのは、私の5歳上の姉が産業技術短期大学校に進学したからです。その授業の一環で、建物を見学してレポートをつくるというものがありました。姉が建物を見学しに行った時、私もついていきました。そのときまで建物を特別意識しなかったのですが、初めて建築物という観点から見て、建物ってすごいんだな〜と、漠然とですが思いました。姉も大学生活がとても楽しそうだったので自分も建築の勉強をしたいなと思ったのがきっかけです。

司会 この時は高校生だったのですか？

渡邊（美） 中学2年生でした。

司会 ということは、進路を考えるには、まだ、早いわけで、かなり刺激を受けたということですか？

渡邊（美） 高校に入る前に大学は決めていました。

司会 それはなかなか凄い。ご家族やご両親がそのようなお仕事に関係していることはあったのですか？

渡邊（美） 両親は建設業ではないのですが、昔から父が趣味で物づくりをし



堤 和司 山形県立産業技術短期大学校教授
ているのを真似て工作することがよく
あったので、自分の手で何かを作るとい
うのは前から好きでした。

司会 そういうこともあったのです
ね。それでは今年卒業した渡部さん、進
路やきっかけなどお話しください。

渡部（莉） 私は母が建設系の電気分
野に就職してしまっていて、小さい時から職
場に遊びにいったりして、仕事をみ
ていました。最初は製図を見て、「線ひ
いて何が楽しいのだろう」と、小さい時
は思っていました。大人になって、母が
担当した建物をみて、すごい〜と思っ
たり、母が目をキラキラさせながら説明し
てくれるので、楽しそうだなと思いま
した。それで私も同じようなところに行け
たらいいな、と思うようになりました。

普通科出身、でも学園生活は楽しい！

司会 お2人に共通しているのは、物
づくりという、実際作った物を見て、作っ
た人が生き生きと楽しそうにしてやりが
いを感じているというのを見て、自分も
やりたいと思ったということですね。実
際に学校に進んで、学んだことや感じた
ことをお聞かせください。

渡邊（美） 私は高校が普通科だった
ので、建築の知識はまったくなかったの



松田 晃 弘栄設備㈱取締役総務管理本部長
ですが、基礎的なことから先生方が細か
く教えて下さいましたので、勉強面では
困ることはありませんでした。学生生活
で特に印象深かったのは、先生方がとて
もフレンドリーで距離なく接してくれた
ので色々な話や相談もできて、そこで
様々な年齢層の方とのうまい付き合い方
などを学ぶことができたことです。

司会 勉強以外で特に楽しかったこと
やイベントはありますか？

渡邊（美） 学校祭・体育祭などの学
校イベントや、建築科でのキャンプも
あって、クラスメートや先生たちと楽し
く学校生活を過ごしました。

司会 それでは渡部さんお話しくださ
い。

渡部（莉） 私も普通高校出身で何も
わからなかったのですが、先生たちに1
から教えてもらって、基礎的、専門的な
ことをしっかり学べたかなと思います。
本格的な物づくりとしての配管は経験が
なく、初めてだったので楽しかったで
す。1から自分で作りあげることが
楽しかった、という思い出があります。

建築環境システム科は22期生が卒業

司会 学校のあらましを教えていた
けますか？

堤 うちの学校は文科省管轄ではなく、厚生労働省の管轄ですので、いわゆる職業訓練校という位置づけです。県立でできたのは、うちの学校が初めてです。創立は平成5年で、現在5つの科があります。機械系はメカトロニクス科とデジタルエンジニアリング科の2科で定員は両方合わせて30名。知能電子システム科が30名、情報システム科が20名、そして建築環境システム科が20名で、1学年100名が定員となっています。短期大学校ですので2年間です。今年22期生が卒業しました。単純に100を掛け

れば卒業生の数になるのですが、定員に満たない時もありますので、それより卒業生は若干少なめです。

特にうちの科は、長く管工事組合さんを始め、設備業界さんのバックアップがあり、また厚生労働省が認めている学科としては「建築設備科」ということなので、最初から建築設備を中心に存在をPRしました。関東学院大学には設備系の学科があったのですが、今はなくなったこともあって、うちは県内の設備業界だけでなく、全国のサブコンさんからも注目されています。

山形県立産業技術短期大学校 概要

住所 山形市松栄2-2-1

電話 023-643-8431

学校の沿革

平成4年10月

全国初の県立職業能力開発短期大学校として、山形県立産業技術短期大学校の設置が労働大臣により認可

平成22年4月

4学科から、5学科へと学科改編（デジタルエンジニアリング科の新設及び情報2科の改編）

学科編成

デジタルエンジニアリング科（定員10名）、メカトロニクス科（定員20名）、知能電子システム科（定員30名）、情報シ

ステム科（定員20名）、建築環境システム科（定員20名）、社会人や短大・四大卒など対象の産業技術専攻科（定員10名）

建築環境システム科

建築物に求められる快適で安全な居住環境を創造するために基本となる空気・水・熱などの環境要素を調整する技術を学び、地球規模で求められる省エネルギーや環境負荷低減を考慮したうえで、建築や設備の設計・施工管理・メンテナンスができる技術者を育成している。

取得可能な資格

管工事施工管理技士（1級・2級）、2級建築士、木造建築士、電気工事施工管理技士、建築施工管理技士、土木施工管理技士

弘栄設備工業株式会社 概要

代表取締役 船橋 吾一

会社の沿革 昭和21年 山形県東根市神町に弘栄設備工業創業
昭和45年 本社、現在地に移転

資本金 3,500万円

従業員 93名 男性76名、女性17名

事業内容 空気調和設備、給排水衛生設備、電気設備、上下水道設備、特殊設備、原料搬送設備、消雪・融雪設備、省エネ・環境保全設備

許認可 管工事、消防施設工事業、水道施設工事業、土木工事業、機械器具設置工事業、電気工事業(国土交通大臣)



渡邊美樹さんの現場の仕事

建設業界は長く不況時代が続きましたが、そういう中でも弘栄設備さんをはじめ設備業界の方々に採用していただき、これまでの22年間内定率100%を続けています。

ただ、ここ2、3年は県内の建築会社さんから、「おたくの科は2級建築士の受験資格があるのだから、あまり設備、設備といわないで建築も表にだしてほしい」と言われまして、ここ2、3年は設備と建築の両方を柱にして、卒業後の就職先は半々ということを目指しています。実は、私自身、設備業界に7年在籍していた経験があり、建物1つ建てるには、いろいろな業種、職種が仲良くやらないと成り立たないので、飲み会とか、キャンプやスキーとかのイベントも大事だと思っており、卒業の謝恩会などは、うちの科だけ宿泊でやっています。

「2人とも配管!？」に驚いた

司会 先生からみたお2人の印象は。

堤 2人とも外見からは、ねじを切っているようには到底思えません。工作実習の中で2級の課題をやるのですが、私も最初はこの人たちはそんなに頑張らないのではないか、と見ていました。ところが、特に美樹さんは誰よりも作業が早

い。もう1人の男子学生と2人で先を行って行っていました。早い人はちょっと待ってくれ、ということで、かなり待つ時間が多かった。それくらい早かったです。特にねじ切りというのは、伏線を張って置いて、大変だぞ、大変だけど頑張れよ、などと実習ノートに書いておくのですが、全然大変じゃない。

「楽しい」と言われた時は、「ほんとかよ」と思いました。そういう意味では目立っていました。また、我々の科だったら、建築のデザインに行くのかな、と思いきや実はそうではなかった。それから、人を立てるのも上手ですし、頼まれたらなんでもやってしまう。そういうのも人間ができています、と思います。また、プライベートでは、楽しいこともやっているということで、メリハリつけるのはうまいと思います。学校のレポートや課題も完璧ですし、そういう忙しい中でも、遊ぶところは遊ぶということで、素晴らしいと思います。

莉里夏さんは、活発さは美樹さん程ではないのですが、逆におとなしい分、「配管(をやるのか)?」という驚きのイメージがもっと強い。進路希望も、建築分野を希望するのかなど、思いきや電気を希望してお母さんと同じ道を歩む、という



山形県立産技短大にある五輪部屋で選手を育成することで、親としてはこんな冥利なことではないのではないのかなと思います。

2人とも地方大会の成績が良くて、県の開発協会が設定している、技能五輪全国大会出場の推薦枠の中に入っていました。私の決め方は、推薦者の中からまず4人に絞り、その中で出たいか、出たくないか、特性とか、やる気などを勘案して2人に絞り込みます。2人に聞いたところ、「推薦されたら光栄なことなので出たいです」という返事がありました。我々としては、練習しろと言われなくてやらないような人は選べないので、自分で自覚して練習する人を選びました。配管という男子社会の中で、やるという意欲には頭が下がる思いです。

チャレンジ精神で出場決意

司会 五輪大会の参加が決まった時はどんな気持ちでしたか？

渡邊（美） 平成26年の短大1年生だった時、先生から推薦をいただき出場しました。平成27年の時は入社する前から、平成27年の幕張メッセ大会と、平成28年の山形大会に出ないかという話をいただいていた。入社前から出るという気持ちはあったので、心の準備期間は長くいただけました。

司会 チャレンジしてみたい、という気持ちはあったわけですね。

渡邊（美） 1回目の出場時、納得のいく成績ではなかったのもっと上をめざしたいと思いました。

司会 納得できる成績ではなかったと言っていますが。

堤 はい。指導力不足です。（一同笑い）ただ短期大学校で普通の授業をしながらですと、大会で入賞というよりは、6時間半という規定時間内で完成することと、最後の水圧審査で「漏れませんでした」という言葉を得ることが目標で、その嬉しさを味わいたいな、と思っています。入賞すれば、それに越したことはないのですが、それより大会にでて、頑張ってもらえれば、私としてはありがたいと思っています。

司会 莉里夏さんはどんな気持ちでしたか？

渡部（莉） 私も推薦された時は、就職先は電気の方に決めていて、出るか出ないか迷っていました。いろんな人に相談して、全国大会はなかなか出られないし、いい機会ではないかという言葉色んな人からもらい、出ようかなと決心しました。

司会 大会に出たときはどんな気持ちでした？特に電気に進むと決めていて、配管の大会に出るといふことに、思うところがありませんか？

渡部（莉） 初めてだったので、会場の雰囲気もわからず行って、皆さんが真剣に一つの課題に向かってやっていることに緊張感を覚えました。あまり練習もできなくて、完成までにはいかなかったのですが、凄いい経験になったと思



第53回技能五輪全国大会時
お互いの健闘を称えて

ます。

司会 美樹さんは。

渡邊（美） 出場は2回目でしたし、あまり緊張する性格ではないので大会は楽しく臨めました。

大会に出場するまでは、自分のことはいっぱいいっぱい周りのことは見えなかったのですが、終わってみて、周りが見えるようになると、自分が想像していた以上にたくさんの方々を支えられて応援していただいていたことを感じて、改めて周りに感謝することができました。

司会 教育する者として、技能五輪全国大会に出場する意義とはなんですか。

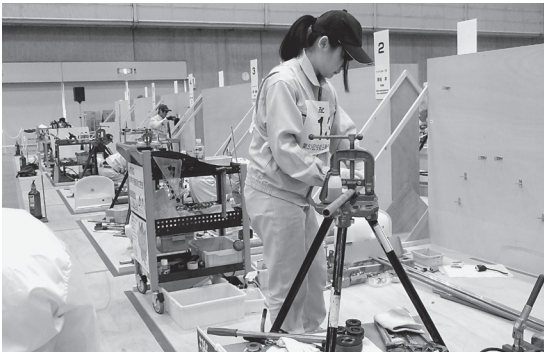
堤 私が担当するようになって13年になるのですが、41回の新潟大会から指導させていただいています。莉里夏さんもそうですが、他の県の選手も工業高校の方も、配管工になるから、あるいは配管工だから出るというわけではありません。うちの学校の場合は、就職先が建築会社であれ電気会社であれ、条件を満たせば、声かけをします。いままで出し

た選手のなかには、建築会社で頑張っている方もいる。そういう意味で、課題が直接仕事に結びつくわけではありません。しかし課題に対して取り組む考え方、練習する努力、目標の置き方、他の人は遊んでいるのに練習しているなど、出場した人について後で会社に聞くと、「他の人とは違うよ」と言っていただけ。そこが、大会に出す意義ではないかと思っています。

練習していないけれど大丈夫なのか、ということから、本人たちが練習していく姿勢ですね。私は毎日ついているわけではないので、さぼろうと思えばさぼることはできるのですが、自分が出た時にどうかということを、考えながら練習しているのかなと思います。いろんな仕事に結びつくと思います。

司会 学校側のサポート体制について。

堤 まず、予選になる山形大会が技能検定2級と同じ課題ですが、それに関しては1年生の授業の中で、その課題を全員にやらせているので、全員が候補者になるということになります。それから、優秀な成績で、そこから選ばれると、設備系に進まない場合でもゼミの先生に協力を戴いています。また、材料費など、予算的なものは最初から2名分の練習する材料代も科に認めていただいています。山形大会を見据えて、強化育成チームというものを作っていただいたので、今までの学校のバックアップによるものだけではない、良い成績に繋がったと思います。



競技に取り組む渡邊美樹選手（写真・左）と渡部莉里夏選手（写真・右）

技能五輪は人材育成の場

司会 技能五輪全国大会に出場する意義について松本さんからお話しください。

松本 私はこの大会は人材育成のためのものだと思います。大会当日だけでなく、そこに来るプロセスです。お2人からお話しがありましたが、色々な練習をして、色々な人たちに支えられて全国大会へ上がってくる、そのプロセスが重要だと思います。当日失敗したり、焦ったことはありませんでしたか？

渡邊、渡部 ありました。

松本 やっていれば、必ず焦りができます。それに打ち勝てるかというのも重要なことです。勝負ですので、時の運がありうまくいけばいい成績が出るし、失敗することもあります。出てきている人たちのレベルが高いですから、自分が失敗したら負けです。みなさん失敗しないための練習をされてきていますので、当日は時の運で、それまでがとても大切だと思います。ただ、反復練習しないと覚えられないので、学校でやるのは材料費がかかりますので、予算的に厳しいだろうと思います。組立は何回くらいやりましたか？

堤 計画では十何回あるのですが、一桁でしょうね。

松本 私の会社でもグランプリ大会へ出場させたのですが、6時間何分という練習を続けてやるというのは、そう何回もできません。ということは部分的に部品を作る練習を何回もやるわけです。何回やっても同じものができるか。特に全国大会の五輪の場合はハート形の配管をつくります。あれを何回も作って自分のものにしていく。ですから、最初の基本的なことは教えたのですが、後は自分で掴むしかない。何回もやれ、失敗してもいい。失敗したのは全部とって置く。それをまた戻す練習までやった。私はこのような途中のプロセスが大事だなと思います。そこが人材の育成に繋がって。企業に入っても苦しいところを味わっていれば、その経験が役に立つと思います。

また、同じ釜の飯を食ったお2人は、道は分かれますが、永遠につながっていくと思います。

司会 地元産業界のバックアップ体制についてお話しください。

企業と技術短大で強化育成チーム

結城 去年の2月に参加企業と技術短期大学校とで強化育成チームを立ち上



敢闘賞を受賞した渡邊美樹選手の作品

げ、事務局に私が入り、大会にむけて取り組んできました。基本的には企業内での自己訓練、自主訓練が基本ですが、出場選手が技能に関する情報を共有し、選手の競技レベルを高めていくことを目標に、技術短期大学の通称「五輪部屋」と呼ばれている実習室を使わせていただき、昨年5回ほど合同訓練を行って、参加選手の技能の向上を図ってきました。昨年は7名の選手が出場でき、3名が敢闘賞を受賞できました。支える事務局の立場として喜んでいきます。今年度の山形大会でもメダルを取れるように支援体制をとっていきたいと考えています。

山形大会見据え学生を採用

司会 それでは、渡邊美樹さんを採用された弘栄設備さんからお願いします。

松田 新規採用する段階から、今年度の山形大会を見据えて、技能五輪に出場できる学生を採用したいということを技術短期大学と話をしてきました。幸いにも弊社を選んでいただいて、渡邊さんともう1名の2名の、技能五輪に参加した学生を採用することが出来ました。2名採用した段階で会社としては、技能五輪にはその中の1名に絞り込んで出そうかなと考えていました。しかし、面談した

時、2名ともどうしても出たいという意思が非常に強かったものですから、当社の会長に2名出すことを最終的に決断してもらって、選手2名を育成していくことに取り組んできました。会社としては、会社の作業所の中に練習場所を確保したり、出場した経験のある先輩からの助言をしてもらいました。また、世界大会に出場した経験のある先輩に来てもらい、見てもらったりしました。

弊社は設備会社ですが、現場管理が基本なので、実際に配管をするという業務とは離れた面があるのですが、2人とも学校で習ってきたことを活かしながら、非常に積極的に取り組んでいただけたので、去年の大会で良い成績が残せたのだろうと思います。会社としての「最終仕上げ」は今年開催される山形大会だと思っているので、今年も2名を出す予定にしています。去年を上回る成績を残してもらえればなと思います。

司会 技能五輪に選手を出すことについて、会社にとっての一番のメリットは何ですか？

松田 会社の社員が全国大会に出るということで、会社全体が盛り上がったと思います。様々な機会でも2人を紹介したり、社員が中心になって壮行会を開催したりと、全社的にまとめることができたと思います。また、終わってからの結果を会社の広報誌に載せたり、取引先も参加する新年会で2人を紹介したりと、いろんな形で2人を紹介することができました。

今年は開催時期が早いので、練習開始時期を若干早めて、最終の10月の目標に向かってやっていきたい。ただ2人と

も会社の工事部門の現場をもっておりますので、練習時間は去年と同じように最初の頃は週2日か3日位、午後からとか、大会に近づけば2、3日はフルでということで、会社で時間調整しながら練習時間を確保したいと考えています。そのためには、先輩の協力とか会社の上司の協力が当然必要になってきます。我々としては調整させてもらいながら、大会に向けていければ幸いだと思っています。また、去年は千葉の幕張メッセだったので、大会本番に当社の会長と工事の本部長と私と3名しか応援にいけませんでした。今年、地元天童市の開催です。大勢の社員が応援に駆けつけられればと思います。

結城 強化育成チームは昨年1年間活動してきたのですが、いったん年度末にあたって、1年間の活動、大会の反省点など総括しなければいけないということで、3月15日に総括会議を開催する予定になっています。経過報告と全国大会の結果、課題、反省点が沢山出てくると思いますので、連絡担当者間で、今後どういった方向で強化チームの活動を進めるかを検討します。それから推薦された選手は、大会に出場しての反省点、課題、今後どういった訓練をしていくかという話し合いをします。その後、計6回の合同訓練を合わせて行うという段取りにしています。一番大事なのは、チームワークですので、総括会議を機に、夜の懇親会も盛大にやってチームワークを高めて本大会に繋がりたいと考えております。

人との関わりと支援があつてこそ

司会 いろいろ盛り上がる話がっぱ

いでてきました。では、社会人になって感じたことなど話してください。

渡邊(美) 社会人になって、この4月から2年目になります。学生の時はやはり、個人の頑張りという気持ちがあったのですが、会社に入ってから人との関わりなしには何も進まないと実感しています。何も分からない、知らないことばかりですが、会社や短大の先輩、上司、同期からもたくさん助けてもらっています。この1年間で仕事だけでなく、人との関わり方を学ぶことができたと思います。現場に配属されてから、職人さんとか協力会社さんからも「女性で大変じゃないの」「女性で不安なことないの」と聞かれるのですが、覚悟して入っているので、心配なことや不安もなくて、むしろ女性のほうが良いこともあるなど最近感じています。女性であることを不安に思うのではなく、逆に強みにして仕事に活かせたらと思っています。

司会 お2人とも女性だから気が付くということは、どんな点でしょうか？

渡邊(美) 現場の中や、事務所も、きれいにしていないと事故も起こりやすいですし、仕事もうまく進まないの、ゴミが落ちていたら拾ったり、靴を揃えたりとか、細かいところで女性ならではの気が付くところはあるのではないかと考えています。

司会 松田さんからみて、職場の雰囲気は変わりましたか？

松田 我々の会社ですと、工事部とか設計積算部がありますが、技術短期大学出身の女性が渡邊さん含め3名います。美樹さんの先輩で技能五輪に出た人もいます。そういう中で美樹さんが入っ

てきて先輩と話もできる方なので、まだ1年ですが馴染んでいます。現場で職人さんと話したりするのは得意で、傍からみても、人と接するのは、上手だと感じます。入ったばかりなのに何年も在籍しているんじゃないのかな、という気がする程です。

司会 これから社会人になるという莉里夏さん、今話を聞いていかがですか？

渡部（莉） 現場ですと男性の方が多かったり、年齢が離れた方が多かったりだと思いますので美樹さんのように、うまく接せられたらいいと思います。分からないことでも、上司の方や先輩に聞いて少しずつでも吸収していけたらいいと思います。

司会 先輩としてアドバイスは。

渡邊（美） 分からないことがあれば、私も訊き過ぎるくらい訊いています。訊き過ぎではないですか、と上司に尋ねたことがあったのですが、「その方がどんなことが分からないのか把握できるからもっと訊いて良い」と言ってくれました。

「女性が働ける職種」をアピール

司会 これまで沢山の学生を送り出してきた先生からアドバイスを。

堤 実は13年間の中で、山形からの五輪全国大会への女性の出場率は高く、以前から「女性をお願いします」といわれていました。私は女性を選んでいるわけではないのですが、女性が働ける職種なんだ、ということのアピール度は高いと思います。先ほど女性ならではということがありましたが、銅管の曲げのきれいさというのは、力を入れればできる

というものではなく、女性の微妙な曲げ方というのがあります。美樹さんの曲げは非常にうまいと思いますし、力があるだけではダメなんだ、ということも感じております。

大会への出場も、男性だとしり込みしてしまうケースが多いのですが、女性だと頑張りますという方が多い。優秀な女性は、出たいという気持ちが強く、いわば必然です。無理に女性を選んでいるのではなくて、積極的なところで選んでいます。毎回、大会の会場下見で、1年に1回会う各県の指導員が寄ってきて（一同笑い）声をかけてくれます。女性の存在は、場を明るくし、ぎくしゃくした雰囲気も解決するのかな、と思ったりします。

国は女性技術・技能者を倍増するという方針を掲げていますが、現場事務所のトイレは男性でも入るのが嫌なくらいの環境だったのですが、女性が働くということになれば、以前のようなトイレでは誰も使わないので、職場環境も良くなっていくと思います。

“水廻り”にこそ女性の感性

司会 トイレの話は重要なことですね。職場の環境作りという点についていかがですか？

松田 前から総務関係、営業部門などに女性はいましたので、特段変わったことはありません。ただ会社の敷地の中に研修棟がありまして、そこは昔ながらのトイレだったので、女性用と男性用と作りかえました。又、女子更衣室は女性が増えてきましたので広げました。

司会 松本さん、全国を歩いてみて、

いかがでしょう？

松本 かつては社員に女性がいないという会社がありました。15人から20人程度の会社で、女性社員がいない偏った会社がありました。そういう会社の男性社員は、女性と普通に口を利いたり、お付き合いできない。若い女性という意味ではないですよ。しかし、女性が入ると、年齢に関係なく、普段のお付き合いで良い傾向がありますね。それと、理性はトレーニングすると上がっていくのですが、感性はトレーニングしてもダメなんです。トイレがきれいになるというのは、女性の感性が活きているからです。

特に我々の業界は、給排水設備で水廻りを扱いますよね。そうすると女性の感性が必要になります。台所、洗面所、お風呂、トイレ、洗濯場など、ユーティリティ全部がそうです。女性の感性がそこに生きてくると思います。そうすると、そういう水廻りの打ち合わせは奥さんになりますので、設計施工上女性の感性が生きてくると思います。

現場を任せられるよう頑張る

司会 それでは、これからやりたいことについて、お2人に限らずお話をします。まずはお2人から。

渡邊(美) まだ入社して1年しかたっておらず、会社の雰囲気によく慣れてきた位ですが、なにも分からなくても挑戦し続けたいと思っています。今の会社には、大学生の時、企業実習で訪問させていただいたのですが、その現場に配属になっていた大学の先輩が、テキパキ仕事をしていて、カッコよかった。それに憧れて改めてこの業界で頑張りたいと

思ったので、私も、後輩にそんな風に憧れられるような、尊敬されるような人になりたいなと思っています。

渡部(莉) 私はこれから社会人として生きて行くのですが、まずは必要な資格をキチンと取って、仕事ができるようになりたいと思っています。先輩とか上司とか聞いて仕事の内容も覚えて、ちゃんと通用するような人になっていきたい、と思っています。2つ目は、職場に大学の先輩がいるのですが、その方も女性ですが、現場を任せられたりしています。その後を継いで2代目になれるように頑張っていきたいです。

松田 待遇面では、こういう業界ですから、現場の都合で土曜日、日曜日が定期的に休めないということが出てしまいます。会社としてはできるだけ代休を取れるようにしていますが、現実には難しい面があります。できるだけ代休をとっていただきながら、休みながらやっていただければと思っています。後、社会的には土曜日などを利用して勉強会をしたり、資格を取れば待遇面で資格手当を支給するようにしています。

女性でも1管の資格を取っている方もいますし、男性ですと、1管、1土木、1電気と、いわゆる「3冠達成」したり、ありとあらゆる資格を取っている方もいます。女性だからということだけでなく男性と同じように現場の工事部の人間でなくても1管を取ったりしています。チャレンジする方が増えています。

松本 同じ仕事をやっていけば、男性と女性の待遇は同じですよ。資格について私は社員に「1年に1資格は取りなさい」と言っています。技能講習でもい

い。最低1つ取ってそれをずっと続けていけば溜まりますね。どの資格でも、持っている人間が、会社に最低1人はいるということを広げていくと40種類位ありました。1人でそんなに全部取れないですね。多い人で3冠で、建築、土木、管が1人だけです。1つずつ取って行けば、技能講習まで入れて20はいけると思います。それには女性だからといって関係ないと思います。資格をとることで自分の励みになるし、知識も増えます。そういう点では会社としては報奨金とか待遇面で優遇してあげればいいと思いますが、資格取ったイコール仕事ができるとは限りません。その辺が会社としては難しいところです。

建設業の重要性をアピール

松田 当社の場合は、合格した時に一時金を支給するという形ではなくて、毎月の給与に資格手当という形でプラスして出しています。ですから自分でチャレンジして合格することによって、自分で給料を上げられる仕組みは作っていません。総務にいる女性も2管を取ったり、チャレンジする方もいます。

仲村 社内講習はどんな形でしていますか？

松田 基本的には自分で勉強することですが、資格をもっている先輩から、勉強会を開いてもらったりしていますね。基本は1人1人の努力です。

結城 資格取得に関連して、山形県建設産業団体連合会での取り組みを紹介します。若手の入職対象者に対して建設業界の取組を紹介するハンドブックを作成しました。タイトルは『ふるさと山形を

作る支える』です。いろんな建設関係の業種を紹介しており、管工事業も紹介しています。管工事に関する資格の種類は、他の業種より多いですね。主だったものだけでも13種類あります。このパンフレットの目的は、今、工業高校に在籍している生徒さんに、建設業に関心をもってもらい、ライフラインを造るために建設業は大切な仕事なのだということを紹介しています。2000部作成し、県の教育庁を通して県内の工業高校の生徒に配布しております。

技能検定2級合格目標に実技シート

司会 それでは今回、特に、若年者のための建築配管施工基本実技シートの活用について紹介したいということなので、仲村さんからお願いします。

仲村 このシートは、若年者の資格取得への支援と技能・技術の伝承を目的として、技能検定2級合格レベル程度の内容を想定し、基本的な作業の手順を紹介し、「実演DVD」とこのシートを合わせて活用する事で、技術の基礎や応用力といった技能者としての必要な人材育成を行うものとなっています。2級の資格を取得する方だけではなく、それを指導する指導者もなかなか育っていないという現状を改善することを目的に、平成24年度職業訓練教材コンクールで厚生労働大臣賞の特選を受賞された「設備施工系共通配管基本実技シート」をその作成者阿部弘之氏（東京都立中央・城北職業能力開発センター）らに再編集頂き、松本理事・技術委員長が委員長を務めて戴いている全管連の技術部会を中心に作成しました。今年の1月に全管連の会員企業



や全国設備工業教育研究会などへ4,000部を配布しています。これまでも冊子による解説本はありましたが、全管連はそれに加えてポイントを動画で紹介するという初めての試みとなっています。

松本 お話しの通り、このシートは2級技能士を取ることを目標にして作ったものです。最初から最後まで作り方が書いてあります。この方法は一つの方法であり、若い技能者の皆さんにはその方法をよく考えて頂く事が非常に重要です。

そういうところについては、指導者が話し合っ、より良い練習法を工夫してほしいと思います。先生と生徒がこういう練習をしたらうまくなる、という実践に役立つし、興味のレベル向上につながるものを作ってほしい。失敗したものを基に、課題の精度につながるような練習法を工夫していただきたいと思います。基本実技シートは、1つの目安としてもらえればいかなと思います。

仲村 美樹さんの1日のスケジュールは？

渡邊（美） 朝8時に朝礼が始まるので7時半には現場に出ます。そこから職人さんと、不具合はないかななどの話をしたり、現場巡回や図面作成、材料注文しているとバタバタと1日が終わります。ほとんど現場直行です。お昼は現場事務所で食べます。12時から1時まで昼休憩があります。休憩は10時と3時に挟んで5時に終業です。そこから、残った仕事をして終わったら帰宅します。

結婚・出産後も働ける仕組み作り

仲村 結婚、出産の後、弘栄設備さんの職場復帰を含めた態勢を教えてください。

松田 当社では結婚してからも勤めている女性社員は多いです。産前産後の休暇のほかに育休もありますし、会社独自に在宅勤務制度を作っています。育休期間中だと給料が減ってしまいますので、希望があれば在宅勤務で、仕事を自宅に持ち帰ってパソコンでもらうこともできます。育休よりは給料が良くなります。総務関係の女性も工事部にいる女性も、出産後に在宅勤務をとりいれて仕事をしています。それにより、できるだけ長く会社に在籍してもらうための仕組み作りはしています。結婚してからも、ずっと勤めている方は多く、独身者は少ないです。この4月から女性が4名、男性は1名が入社します。

司会 莉里夏さんが電気業界で働くことを残念がる声もありますが、私はいいことだと思っています。建物は総合技術ですし、『全管連ジャーナル』3月号で

は、電気業界との意見交換会でお互いに関心しているかという内容が掲載されています。設備の基礎知識を学んだ人が、別の業界について活動することは我々の業界にとっても歓迎できることだと思います。

松本 まったくその通りです。その逆もありますね。働く人の意識も戦力も全然違いますよね。

建設業界を目指す方へメッセージ

仲村 お2人から、建設業界を目指す女性たちへ、やりがいや魅力を含めたメッセージをいただきたいと思います。

渡邊(美) 建設業はまだまだ男性が多く男社会といわれるのですが、今こうして男性も女性も関係なく現場で仕事が

できています。男性が多いということに臆することなく、女性だからこそできることもあるので、もっと活躍する女性が増えれば、現場の雰囲気も良くなって、より質の良い仕事をしていけるのではと思います。

渡部(莉) この間、学校の行事で建設中の現場を見せていただいたのですが、そこでも女性の方は少なかったのですが、2人いて普通に男性と一緒に働いている姿を拝見しました。そのように私も頑張っていけたらいいなと思います。これから就職される方も、活躍できたらいいなと思います。

司会 ありがとうございました。

—いつも、そこに—

クリモトの製品群

- KSジョイント(塩化ビニル管用伸縮継手)
- ボール式止水栓(伸縮形)
- パラソルジョイント(伸縮可とう継手)
- WATTS減圧逆流防止器
- ポリグリップ(ソケット)
- メタ直結止水栓(伸縮形)
- 小型空気弁
- サドル付分水栓
- 量水器ボックス
- 青銅製ソフト形仕切弁(外)
- 甲形止水栓
- 逆止弁付ボール止水栓(伸縮形)
- 逆止弁付ボール止水栓(伸縮形)

クリモトの水道用器具は、いつの時代にもマッチする信頼性の高い製品を各種そろえています。特に、多様化する社会のニーズに応え、求められる製品を常に追求し、合理化・省力化に努めています。

栗本商事株式会社
 URL: <http://www.kurimoto.co.jp/kurimototrading/>
 名古屋営業所／仙台営業所／広島営業所

本社 〒590-0907 堺市堺区三宝町9丁403番地4
 堺事業所・物流センター TEL 072-232-9541 FAX 072-232-9539
 東京支店 〒108-0075 東京都港区港南2丁目12番23号(明産高浜ビル9F)
 TEL 03-5783-4502 FAX 03-5783-4505
 九州支店 〒822-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目3番11号(KDX博多南ビル)
 TEL 092-432-0246 FAX 092-432-0273